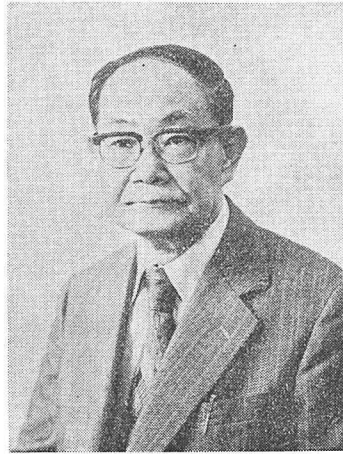


森鹿三博士計 顧問 本会



本会顧問森鹿三博士は、かねて病氣療養中のところ、昭和十五年八月十日午後二時三十分、肝硬変のため自宅で逝去された。享年七十三歳。ここに謹んで哀悼の意を捧げる次第である。

博士は明治三十九年十一月五日、神戸市に生まれられ、大正十二年神戸二中から第三高等学校文科丙類に入学、同十五年京都帝国大学文学部史学科に進み、東洋史学を専攻された。昭和四年卒業されると、その五月、創設間もない東方文化学院京都研究所(十三年に東方文化研究所と改称)に助手として入所された。翌年八月研究員となり、戦後同研究所が京都大学人文科学研究所に統合されるまでその地

位にあって、歴史地理学研究室の中心として活躍された。昭和二十四年、統合に伴う改革によって京都大学教授に補せられ、四十五年の退官までその職にあり、人文科学研究所の歴史地理学研究室を主宰された。この間、二十八年以降、京都大学文学部と大学院で中国歴史地理の、また四十二年以後は法学部大学院で東洋法史の講義を担当、さらに三十八年十月から四十二年九月までと、四十四年四月から四十五年三月までの前後五年間、人文科学研究所長の職につき、四十年からは研究所に附置された東洋学文献センター長をも兼ねられた。

退官されるとただちに仏教大学文学部教授に迎えられ、逝去されるまでその任にあった。同大学においても、文学部長、歴史研究所長、そして副学長などの要職を歴任されている。

博士の研究分野は多岐にわたるが、その著書にもみられるように、中国歴史地理学と古文書学が中心であろう。戦前の東方文化時代は、「水経注の研究、清代疆域図の編纂」という研究題目が物語る通り、小川琢治博士指導のもとに中国歴史地理の最も基本的な文献の研究と、地図の作成という作業に取組まれた。錯簡脱誤が著しい『水経注』の、校訂注釈の総決算ともいふべき『水経注疏』の完成が、熊会貞によって進められているのを注意深く見守りつつ、博士は、趙一清、戴震以後の水経注研究史を精密に跡づけ、

文献学的に水経注研究の基礎を固められた。のち人文科学研究所で博士が共同研究「水経注疏訂補」を主宰されたのは、楊守敬、熊会貞らの『水経注疏』をさらに発展させようとするものであり、その成果の一部は、博士の『東洋学研究―歴史地理篇』（一九七〇 東洋史研究会）に結晶している。また、中国とその周辺地域の学問的に信用できる地図がなかった当時、各方面から、歴史地理的内容を含む疆域図の作成が要望されていた。博士は数人の協力者を得てその完成に力を注がれ、昭和十二年、一枚刷り四百万分の一の「東亞大陸諸國疆域図」とその索引を完成された。

次にあげるべきは、漢代の木簡を中心とした中国古代文書の研究である。一九三〇年、甘肅省の西北、砂漠の中の居延から一万点に及ぶ漢代の木簡が発見された。これまでの文献からは知り得ない、漢代の軍事、行政などの具体像を雄弁に物語るこの資料は、戦時中の悪条件の下、勞榦氏らの中国学者の手で『居延漢簡考釈』として出版された。一九五一年、当時北京にあった故今西春秋氏の努力によってこの書物が研究所にもたらされるや、いちはやく重要性を洞察された博士は、その年から居延漢簡の共同研究班を組織された。博士自身の研鑽成果が『東洋学研究―居延漢簡篇』（一九七五 同朋舎）として公刊されるとともに、共同研究を通じて数多くの漢簡の専門家が養成され、今日、ますます重要度を増しているこの方面の研究に大きな寄与

をなされたのである。なお、博士が昭和三十六年、京都大学より文学博士の学位を受けられた論文の題目は「居延漢簡の古文書学的研究」にほかならない。

漢簡研究から進んで、博士はまだ十分に解明されていない漢代の法制への関心を深められ、それに遡るべく、昭和三十二年から『唐律疏議』を共同研究でとりあげられた。唐律の精緻な文献的研究、日本の古代法との比較などを通じて、博士は、東洋法制史の研究が育成にも意を注がれた。このほか、中国の年中行事や本草学関係についても博士の造詣は極めて深く、特に本草学の因縁から、晩年、武田薬品科学振興財団の杏雨書屋図書館の館長を兼ねられたことを附記しておかねばなるまい。

博士はその法名、広文院博蒼鹿苑大道居士があらわすように真に驚嘆すべき博覧強記の方で、上記の専門分野にとどまらず、いろいろな問題をとりあげ、卓抜した学殖を示された。「竹と中国古代文化」や「唯水史観」などの論文に、それは遺憾なく発揮されている。

豪放磊落な裏に、細心に緻密な心くばりをされる博士であったが、酒が入ると、飲むほどに酔うほどにますます頭は冴え、談論風発夜を徹すること殆ど通例といってよかつた。そうした場合も私的な話題や愚痴、泣き言めいたことは一言も洩らされることなく、高歌放吟の中にいろいろな御苦労を昇華されていた博士の姿が心に残る。（梅原郁記）